【別添4】

ノウフク・アワード2024審査基準

【地域協議会、NPO 法人、協同組合等が主体となっている取組】

(「実施要領3(1)募集する取組」のうち⑧、⑨の取組)

農福連携等応援コンソーシアムのアイデンティティを「耕すみんなを応援する」とし、これに連動させ、ノウフク・アワード 2024では「人を耕す」、「地域を耕す」、「未来を耕す」という3つのキーワードを評価軸に設定し、多様な視点・切り口から評価を行い、90点満点で評価を行う。なお、応募用紙の一部の項目において、字数制限を著しく超過した場合は減点対象となる。

3つのキーワードの視点

「人を耕す」=農福連携等を推進する多様な当事者に光が当たる取組になっているか

「地域を耕す」=地域農林水産業に積極的に関与し、持続可能な地域社会のあり方を発信できるような取組となっているか

「未来を耕す」=農福連携等の新しい価値、物語を発掘し、波及効果のある取組となっているか等

\22 	=T/T 1° /> 1	==./ 	F 445 TT 7 / \
選定基準	評価ポイント	評価点	点数配分
1. 人を耕す	〇 年間を通じた農作業の創出に向けた支援等、障害者等の賃金・工賃	各 評 価	30点
	向上に向けた取組を行っている。	項目5点	
	〇 農福連携技術支援者等の派遣による助言等、障害者等に対して能	×6項目	
	力や適性に応じた農作業等の選定が行われるような取組を行っている		
	〇 農林水産業経営体及び福祉事業所等の双方の不安や疑問を解消		
	し、障害者等が働きやすい環境の整備に関する支援等を行っているほ		
	か、農作業等の安全管理や健康管理が適切に行われるよう支援・指導し		
	ている		
	〇 障害者等がその能力を活用して農林水産業等に携わることで社会参		
	画を図り、自己決定に基づいて、地域において主体的な生活を営むこと		
	ができており、一般就労へとつながっている事例も見られる。		
	〇 障害者等が農業において活躍する姿を通じて地域や職場内等で障		
	害者等に対する理解が深まり、多様な人々が働きやすい職場環境の創		
	出につながっている。		
	○ 多様な人々が農福連携に関わることで、お互いを認め合う雰囲気が		
	生まれており、立場が違っても理解し、寄り添い、助け合おうとする環境		
	が創出されている。		
2. 地域を耕す	〇 マッチング支援等により、障害者等が地域における貴重な農林水産	各評価	30点
	業の労働力となることで、地域農林水産業の維持・発展に貢献している	項目5点	
	〇 研修会の開催等、障害者等に対する理解が深まることで、福祉事業	×6項目	
	所等が農作業等を請け負う農地面積や農林水産業経営体の数、障害者		
	の受け入れを希望する農林水産業経営体の数等が増加している		
	〇 農福連携の推進等により、マッチング支援等を行った農林水産経営		
	体の経営の安定化が図られ、規模拡大、生産性向上につながっている		
	〇 農福連携の推進等を通じて、地域の人々が障害者への理解を深め、		
	多様な人々が共生できる豊かな地域社会の実現に貢献している		

	○農林水産業経営体や福祉事業所等と連携して農作業体験や収穫体験		
	等を行うことで地域内外からの交流人口の増加につなげている		
	○ 農福連携の推進等を通じて地域の企業・農林水産業経営体・JA・社		
	会福祉法人・特別支援学校・地方公共団体等の異業種がつながり、地域		
	活性化へとつながっている		
3. 未来を耕す	〇 スマート農業の推進等、先進性、独創性、話題性がある取組を行っ	各評価	30点
	ている	項目5点	
	〇 農福連携の推進等の模範となる取組であり、全国への波及効果が	×6項目	
	期待できる		
	○ ユニバーサル農園の推進等、地域内外との連携を深めることで、持		
	続可能な地域共生社会や多様性のある地域づくりに貢献しており、これ		
	からの日本社会に必要な農福連携の形が発信できている		
	〇 農福連携の取組が地域内に止まらず、地域外の団体等とも連携し、		
	幅広い分野・地域とのつながりを生むことで、新しい農福連携の形が形		
	成されている		
	○ 農福連携実践業者に対する高収益作物への転換やノウフク JAS、		
	GAP 等の認証取得、6次産業化を通じたブランド化や環境等に配慮した		
	持続可能な農業などの推進により、地域農林水産業の未来に明るい兆し		
	が見えている		
	○ 人の心を動かす農福連携の推進等に関するストーリーがあり、企業		
	や国民が応援したいと思わせるような取組である		